事例 25　白神山地の新たなシンボルツリーの周辺整備と活用

（東北森林管理局 米代西部森林管理署・藤里森林生態系保全センター）

- 秋田県山本郡藤里町 藤琴沢国有林
- （左）新たなシンボルツリー「岳岱大ブナ」（令和５(2023)年９月）
  （右）新たなシンボルツリー「こまいぬシナノキ」（令和５(2023)年５月）

白神山地内のレクリエーションの森「岳岱自然観察教育林」において、来訪者に長年親しまれてきた「400 年ブナ」が倒伏していることが確認されました。このため、東北森林管理局及び藤里町は、白神山地の新たなシンボルツリーとして、ブナとシナノキの巨木にそれぞれ「岳岱大ブナ」、「こまいぬシナノキ」という愛称を付け、令和 4 (2022)年 12 月に公表しました。

令和 5 (2023)年 5 月には、東北森林管理局、秋田白神ガイド協会、藤里町の三者協働により、「岳岱大ブナ」への新たな遊歩道と樹木を保護するための侵入防止線の整備を行いました。

さらに同年 6 月には、藤里町主催の白神山地世界自然遺産登録 30 周年記念イベント「春の白神ウィーク 2023」の一環として、新たなシンボルツリーの公式測定が行われ、その結果、「岳岱大ブナ」は幹回り 401cm、樹高 31.6m、「こまいぬシナノキ」は幹回り 473cm、樹高 30.4mと公表されました。

この様子がテレビニュースや新聞記事で広く世間に PR されたことなどから、令和 5 (2023)年度の岳岱自然観察教育林への入山者数は前年度の約 1.5 倍となりました。引き続き、地域の関係者と連携し、自然観察教育林の活用や適切な管理に努めていきます。